



PCCK UP

500万 7/15 新潟 12R で1位同着の2頭

レイカーラ

牝3 美・堀 3戦2勝
父キングカメハメハ
母カーラパワー (Caerleon)

ラスヴェンチュラス

牝3 美・小島茂 5戦2勝
父ディーブインパクト
母ジョセット (Danehill)



両馬の意地とプライドがぶつかり合う白熱のデッドヒート。7月15日新潟12R 3歳以上500万下(芝1800m)はレイカーラとラスヴェンチュラスのマッチレース。馬群を捌いて抜け出したレイカーラに、外から追い込んだラスヴェンチュラスが猛然と襲いかける。残り200mから馬体を併せて叩き合い、1着同着になった。ほぼ同じ位置取りから両馬が使った上がり3Fがメンバー中最速タイの32秒8。前半1000m通過60秒6のスローペースになり、レースの上りは3F33秒3の速い決着だったが、後方追走からケタ違いの末脚で差し切った。3着のバストフォリアに騎乗した北村宏騎手は「手応えが良かったので交わせるかなと思ったのですが、前2頭に同じ上がりを使われたら敵いません。あの2頭は強いですよ」と舌を巻いていた。これでレイカーラは3戦2勝。デビュー当時、オープン馬のリアルインパクト、オメガハートランドと併せて互角以上の動きを見せていた素質馬が大器の片鱗を覗かせた。ラスヴェンチュラスは休養前に減った馬体も大幅に回復。春先のひ弱さがなくなり、逞しさを増した印象だ。両馬共にキャリアが浅いだけに更なる成長が見込める。次はGIの大舞台で再戦が見たい。文/辻三蔵 (レーシングライター)

PCCK UP

ガラアフェアー

牝3 栗・野中 5戦0勝
父ダイワメジャー 母リッチアフェアー (Machiavellian)

新馬戦で4着に来たものの、その後はふた桁着順続き。馬体回復のため放牧を挟んだが、なかなか馬体重は戻らなかった。「カイバに好き嫌いがあるし、その好みも日によって違ったりする」と大平厩務員は頭を抱えていたが、牝馬らしく夏の暑さが合った

のだろう。「汗をかくようになってから、急にカイバ食いが安定しはじめた」。それから連続3着。「馬体の回復も早くなったし、次は決めたい」と根岸助手も未勝利脱出の計算を立てている。文/吉田竜作(大阪スポーツ)

キャッチコピーキャッチコピ
キャッチコピーキ



サトノジュピター

牝3 美・堀 3戦1勝
父アグネスタキオン 母アドマイヤテレサ (エリシオ)

00年以降、中山芝2000mで2コーナー通過順位16番手以下から追い込んで勝った馬は4頭だけ。05年皐月賞を勝ったディーブインパクト、07年に3歳未勝利で初勝利を挙げたジャガーメイル、12年皐月賞を制した

ゴールドシップ。そして、4月8日の3歳未勝利で16番手追走から豪快に捲り切ったサトノジュピターだ。メンバー中最速の上がり3F34秒5の末脚はGI級の資質を証明した。秋華賞に出走できれば、最大の惑星馬になる。文/辻三蔵 (レーシングライター)

3歳未勝利が面白い

新馬戦でまずまずの結果で、しかし春先ハイレベルのレースで着順を落として、短期の休養を挟んで立て直してきた馬などは、人気の割に美味い場合があります。春先までは仮にレース条件がその馬に合っていないなくても、クラシックなどを見据えて芝のマイルや中距離戦に使われる傾向があります。しかし、そろそろ後がなくなる夏競馬では、そんなことも言っていられないので、前走ハイレベルの芝2000mで凡走↓次走ダート1200m戦を使ってきて人気薄で未勝利脱出というケースが見られるようになります。

条件変更初戦の狙い方は、「もしかしら走るかもしれない」という可能性を秘めている人気薄を狙うに限ります。走るかどうかやってみなければ分からないのに、わざわざ人気馬を狙うのはリスクが大きすぎます。この時期は大半の未勝利馬が全力でメイチの勝負に出ます。過剰人気馬から買う義理はありません。可能性は低くても、条件変更へ減量騎手起用、荒れ馬場の逃げ、開幕週の追い込み、重馬場などで一変の可能性のある馬を見つけ出すことが肝要です。

「美浦ドリーム」の実力は!?

夏競馬前半戦も10万超馬券が続々中! ●7/14 函館5R 15万馬券ダブル的中! ●7/15 新潟11R・新潟日報賞16万馬券的中! ●7/21 札幌10R・STV賞21万馬券的中! ●7/21 中京11R・飛騨S 10万馬券ダブル的中! ●7/21 中京7R 39万馬券的中! ●7/29 小倉11R・KBC杯30万馬券的中! (7月29日まで)



<http://www.miho-d.jp/>



ブリッジクライム

牝3 美・鈴木 7戦2勝
父ゼンノロブロイ 母リーチマイハーバー (Boston Harbor)

年明けの新馬戦ではイジゲン、ステラウインドといった素質馬相手に3馬身差の圧勝。オークスの秘密兵器として期待されたが、脚質が安定せず、力を発揮できなかった。2勝目は7月8日の織姫賞。後方追走から馬群を

捌いて追い込み、今までの勝ち味の遅さを払拭する快勝劇を演じた。「新馬戦のように早めに動く形よりも二呼吸、いや三呼吸ぐらい我慢した方が切れる脚を使える」と鈴木康調教師。遅れてきた大物が実りの秋を迎える。文/辻三蔵 (レーシングライター)

また、ローカル競馬では馬や騎手が各地にバラけ、若手の減量騎手や年間10〜20勝クラスの騎手、中堅ベテランと呼ばれる中でもいぶし銀の腕を持つ騎手の騎乗機会が増えます。本来ならこれらの騎手の騎乗馬も軽視できないはずなのですが、競馬メディアはローカルを軽視する傾向があり、安易な予想がなされてしまうため、実力が過剰評価されて◎が集まる馬が多数出現し、逆に減量騎手が跨って好走する可能性のある馬が見逃されることがあります。その間隙を突けば、好走する可能性のある人気薄をチョイスできるでしょう。

夏は牝馬! 注目の1頭

現場発

レースが終わった後に「やっぱり牝馬だったか……」とありがちな季節。暑さを味方につけて、グイグイ調子を上げている夏女たちを一挙に紹介しよう。

※成績は2012年7月29日現在

ラフォルジュルネ

牝5 栗・松田博 20戦4勝
父スペシャルウィーク 母グレイトフィーヴァー (Kaldoun)

今年は田辺騎手が小倉に滞在しているが、相性のいいこの馬の存在も理由の一つのはずだ。10〜11年にかけて3連勝した後はバツとしないが、その一因は陣営が思うように状態面が戻らなかったこともある。今回は最後の夏のためにしっかりと休ませた

後、栗東でも十分に乗り込んできた。「馬体などはこれまでで一番いいくらい。追い切った後も(体が)減らないから」と松田博調教師。釜山S→小倉日経OPで最後の夏の小倉を締めくくる。文/吉田竜作(大阪スポーツ)

アイラブリリ

牝3 栗・福島 10戦2勝
父ストラヴィンスキー 母チーキーガールズ (トワイニング)

開幕週の小倉で行われた佐世保特別(古馬1000万)で2着。「夏の小倉は相性がいいし、ここを待っていた」と福島調教師が言うように、馬場の悪かった11年小倉2歳S(8着)を除けば、6戦していずれも3着以内に入っている。福島厩舎は小倉滞

在でのノウハウも豊富で、実際に昨年も結果を出してきた。前走で古馬との対戦にメドも立っているのだから、次走は確勝級。小倉最終週の北九州短距離Sでも注目の1頭となっているはずだ。文/吉田竜作(大阪スポーツ)

トップ騎手の狙い方

北海道シリーズには、横山典、藤田、岩田騎手など有力騎手が集まります。逆に小倉では武豊騎手に有力馬が集中し、いつもにも増して人気過剰になるケースが見られます。私の場合、トップジョッキーが有力馬に跨って過剰人気していれば、買目から削除するケースも多々あります。それは、トップジョッキーは勝率は良くても、長期的に見ると回収率がプラスになることは稀であるためです。狙うなら人気薄に跨った時に限ります。彼らは馬の能力を最大限に発揮する能力に長けています。

超高配当を
続々と的中!

噂の馬券師が語る
夏競馬のヒント



錦木正三氏
〔「美浦ドリーム」主宰〕